日本福祉心理士会ニューズレター（No. 12）

2024年2月発行　　**内容：会長挨拶、新幹事の紹介、Topic**

会長挨拶　―福祉心理士会の発展をめざして―

富樫　ひとみ（茨城キリスト教大学）

日本福祉心理士会会長の富樫ひとみでございます。

このたびの能登半島地震で被災された皆様とご家族様、その関係者の方々に、心より御見舞を申し上げます。一日も早く救援・復興が進み、皆様が平穏な日々を取り戻されますことを祈っております。

福祉心理士の皆様におかれましては、日々、福祉支援や心理支援などをご実践されておられますこと、敬意を表します。

ここ２～３年は新型コロナウィルスの脅威に誰もがさらされ、社会的な交流を控えるなどの自粛生活を送ってきました。その後、新型コロナウィルスに対するワクチンが開発され、昨年５月に感染症分類が５類になりました。その頃からマスク生活が徐々に緩和され、以前の日常生活に戻りつつあると実感されている方も多くいらっしゃるかもしれません。

しかし、その一方で、感染症の専門家は感染力の高さや合併症・後遺症のリスクを取り上げたりしています。また、福祉サービスを提供している施設では、緩和されたとはいえ、感染予防対策が現在も取られており、日々大変な思いをされています。コロナ禍が提起した社会的課題は大きく、社会システムの在り方や福祉制度の見直し、心理的支援など、これからも引き続いて解決に向けた取組が求められます。

コロナ禍がもたらした社会的課題だけでなく複雑さを増している現代では、様ざまな社会的課題があります。これら社会的課題に対応するためには、社会的・福祉的見地と心理的見地の双方から課題を捉え、支援する専門性が欠かせません。福祉心理士は、社会・福祉的知識やスキルと心理的知識やスキルを兼ね備えている専門家です。福祉心理士の存在意義は重みを増し、社会からますます求められる存在であると確信しています。また、社会からの要請に応えるべく、研修会の開催など福祉心理士一人ひとりが、またお互いがともに研鑽を重ねられるよう、基盤整備に力を入れています。そのために、皆さまに２つのことをお願いいたします。

① メーリングリストご登録のお願い

研修会等福祉心理士会行事のお知らせをいち早く皆様にお届けするシステムとして、メーリングリストの作成を進めています。メーリングリストにご登録いただける方は、以下のメールアドレスに必要事項をご連絡ください。

ぜひ多くの方のご登録・連絡をお願いいたします。

宛先メールアドレス：ht-togashi@icc.ac.jp

件名：福祉心理士会メーリングリストへの登録について

本文：福祉心理士会メーリングリストに登録を申請します。

氏名、お差し支えない範囲でご所属、メールアドレス（メーリングリストに登録するメールアドレス）

② 福祉心理士会の活動へのご協力のお願い

福祉心理士会では、研修会等を充実させ、成長、拡大させていきたいと考えています。その活動に、ぜひ皆さまのお力をお貸しください。ご協力いただける方は、以下のメールアドレスに必要事項をご連絡ください。

ぜひ多くの方のご連絡をお待ちしております。

宛先メールアドレス：ht-togashi@icc.ac.jp

件名：福祉心理士会活動への参画について

本文：福祉心理士会活動への参画を希望します。

氏名、お差し支えない範囲でご所属、メールアドレス

これからも、一層福祉心理士会が発展するよう鋭意努めてまいりますので、引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新幹事の紹介

〇過日行われました福祉心理士会選挙及び第１回幹事会で新しい幹事が決定しましたのでご紹介いたします。（敬称略）

網野　武博	大原　天青	富樫ひとみ	佐藤　和枝
荒谷　容子	大部　令絵	中山　哲史	塩澤　綾子
有村　玲香	片岡　玲子	宮本　文雄	水口　　進
伊藤　陽子	後藤　幸洋	村本　浄司	
講井　征力	小林真起子	山本　愛子	
大迫　秀樹	佐々木銀河	米川　和雄	
大西　　良	杉山　雅弘	渡部　純夫	

※第１回幹事会は、2023 年 11 月 29 日にオンラインで開催されました

Topic

タイ国から見えた“福祉心理”の重要性！

北海道置戸高等学校 教頭 後藤 幸洋

この度、タイ政府日本教職員招へいプログラム（タイ派遣プログラム）の一員に選ばれ、2023 年９月３日から９日までタイ国へ派遣されました。このプログラムは、G7 主要７カ国や G２０教育大臣会合を踏まえて、教育分野で諸外国との関係強化を図ることを目的に２０１５年からタイ教職員日本招へい事業が始まり、１８年からはタイ政府の招へい事業も始まりました。今回のタイ派遣プログラムでは、全国から小中高各２名ずつ計６名が参加しました。北海道内からの参加者は初めてということで、選抜いただいたことに改めて感謝しております。

せっかく貴重な経験をしてきましたので、この場をお借りし、「タイ国から見えた“福祉心理”の重要性！」と題し、紹介させていただければと思います。

〇タイ派遣の動機

私は、以前にもタイを訪問したことがあり、タイの首都バンコクと地方の関係が、北海道における札幌と地方の関係に類似しており、今後一極集中、そして地方の高齢化や過疎化という課題に共通点があるのではと感じていました。福祉科の教員として、福祉科を設置している置戸高校の教頭として、多様性の尊重や学校を軸とした地域連携について、タイの教育からヒントが得られると考え、北海道の教育や地域福祉の発展にいかせるのではというのが動機となりました。

〇タイ派遣プログラムの行程

現地では、２日目に、タイの伝統校を訪問し、授業見学や教職員との意見交換を行いました。そして、代表の生徒からは、校内の設備を紹介してもらいました。その生徒は、日本文化に興味をもっているとのことで日本語と英語を組合せながら説明してくれました。私もできる限りタイ語を用い、英語と日本語で補いながらコミュニケーションをとると、あっという間に“距離感”が縮まったような気がします。また、管理職の先生方と「不登校生徒への対応や生徒指導の在り方について」意見交流をすることができました。午後からは、タイ教育省にも訪問し、タイの教育の概要やタイ教育省の組織構造について講義を受けました。

３日目には、バンコクから離れたナコーンラーチャシーマ県（現地ではコラ県と呼んでいるとのことなので以下コラ県とします）にある初等部から大学まである公立の一貫校へ訪問しました。ここでは、管理職の先生方と学校運営や経営ビジョンについて交流することができました。「生徒のために、地域の期待に応えるために」という想いは共通していることがわかりました。帰り際、「ベンジャロン焼き」というアユタヤ王朝の１７世紀前後から始まったとされるタイ伝統の陶磁器を記念としていただき、たいへん感動しました。

４日目の午前は、コラ県にあるユネスコ世界ジオパークや化石博物館を見学しました。午後から訪問したソンナン学校では、このジオパークや化石博物館を地域資源として、地域カリキュラムを開発し学校の特色をだしています。地域資源をいかしたソンナン学校のカリキュラムは、タイ国の中でも革新的であるとのことです。

５日目には、サラブリー県にある学校で、参加した６人の教職員が事前に考案した授業を実践しました。日本のスポーツや折り紙、書道などの文化や生徒との意見交換を行いました。授業を終え、タイの生徒たちが喜んでいる姿を見たときは、胸が熱くなりました。私は、少ししかタイ語は話せませんが、相手がどう受け止めているかを想像し、情熱をもってはたらきかければ、国を超えても想いは伝わることを実感しました。

◎“福祉心理”の重要性

本プログラムで、何校かの管理職の先生方とお話しする機会がありました。どの学校も「不登校生徒の対応」や「今後の生徒指導の在り方」が課題となっていることがわかりました。タイでも、新型コロナの影響を受けてなのか、不登校生徒の数が増えているそうです。不登校生徒へのアプローチとして家庭訪問だけではなく、オンラインでの教育相談を取り入れている学校もあるそうです。また、学生の間でスマートフォンが普及し、生徒指導の内容も変化してきていることから指導の在り方を模索している様子でした。

私は、新しい『生徒指導提要』にも触れ、生徒たちの成長を支援する「発達支持」の視点が今後は重要になることを共有しました。併せて、学校や教師の力だけではなく、警察や司法、福祉、医療・保健等の様々な関係機関と連携する視点をもつことの必要性を確認しました。

福祉、医療・保健との連携については、タイではあまりなじまないようで、具体的な内容を伝えるとたいへん関心をもっていただくことができました（もちろん「福祉心理士」という資格があることも知らなかったようですが、その目的や意義を説明すると興味深そうに話を聞いてもらえました）。

このことから、教育分野における“福祉心理”の視点は日本だけではなく、タイにおいても重要になるのではないかと感じました。

「日本福祉心理士会ニューズレター」へのご意見・ご感想をお聞かせください。

※〇〇について掲載してほしい、掲載内容の感想・・・お待ちしています。

ＱＲコードを読み取っていただくと、
アンケートフォームにアクセスできます